令和５年６月 23 日

東京保育専門学校
校長　松 本　勲 武　殿

東京保育専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

令和４年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１　学校関係者評価委員
①野上　秀子（東京都私立幼稚園連合会理事、私立久我山幼稚園園長）
②浜口　順子（お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科教授）
③加藤　路子（公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会事務局長）
④山本　祥子（れんげ桜が丘保育園園長、本校卒業生）
⑤松浦　栄子（私立サンタ・セシリア幼稚園園長）
⑥薄田　有希子（保育科１部在学生保証人（保護者））
⑦中嶋　早苗（保育科２部在学生保証人（保護者））
⑦横田　純二（横田公認会計士・税理士事務所所長）
⑧大沼　康（株式会社矢島工務店代表取締役、東京商工会議所杉並支部地域振興委員会
高円寺ブロック　副ブロック長）

２　学校関係者評価委員会の開催状況
第１回委員会　令和４年 11 月 17 日（オンライン会議）
第２回委員会　令和５年３月 24 日（オンライン会議）

３　学校関係者委員会報告
別紙のとおり

以上

別紙

Ⅰ　重点目標について

1　重点目標について

重点目標に掲げた 4 項目について、目標達成されたものとそうでないものがあり、達成されなかったものについては引き続き次年度以降も取り組みが必要である。達成に向けたプロセスの改善をお願いしたい。

特筆すべき点として以下を挙げる。

・人権に対する意識向上やハラスメント防止について、教員が共通認識を持つ必要があると考える。外部講師による講義やワークショップをオンラインで行うか、そのようなビデオを視聴することを全員に義務付けるなど、多忙な業務の中でも実施できる方法を工夫してほしい。

・コロナ対応において一定の成果をみたことは高く評価されると思う。

Ⅱ　各評価項目について

1　　教育理念・目的・人材育成像

昨年度から引き続き、建学の精神、教育理念を明確にしており、それに基づく方針や目標設定があり、目標達成のために堅実な取り組みが行われていることを評価する。課題と感じられる部分もあるので、引き続き改善に取り組んでいただきたい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

・コロナにより数年見送られてきた校外セミナーを 2023 年度は実施予定と聞いている。成果や課題を明らかにして今後につなげてほしいと思う。

・常勤、非常勤教諭が、学校の理念や目的、現状と課題について共有する機会をオンラインでもち、参加できなかった人にはレコーディングしたものを視聴してもらうようにするといいのではないか。対面とオンラインを適宜使い分けて、職員同士の情報共有を推進していくとよいと思う。

２　学校運営

昨年度の運営状況を踏まえ、より良い学校運営のため方針、事業計画が組まれており評価できる。一方、運営方針の共有について、非常勤講師との意思疎通が課題となっており、改善が必要。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

・課題となっている非常勤講師との運営方針の情報共有について、具体的な解決策を検討してほしい。

・教員の人事考課に関して、評価の対象とする成果の基準を明確にする必要があるのではないか。

・情報システムに関して、共有サーバーの不具合による業務への支障についての報告があったが、より安全、確実な共有システムの構築を今後検討してほしい。

３　教育活動

理念・目的・育成人材像に沿って教育課程の編成が行われ、シラバスや履修カルテなどを活用し、計画的な教育活動が行われている。また、専門学校として、職業能力の獲得に根差し、実践知の修得を重んじた教育内容が組まれており、特色あるものとなっており評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

・昨今、カトリックの学校の中で、全面的にカトリック精神を押し出すのをやめようとする風潮がある。しかし、心の教育という意味で大切な意味を持っていると思うので、これからも大事にしてもらいたい。

・模擬保育を行ってから実習に行くという学びの順序は効果的だと感じた。

・学生にアンケートを書いてもらう取り組みについて、とても良い試みだと考える。教員にとって参考になる上、学生自身もアンケートを書けるよう、熱心に授業に取り組まないといけないからである。

・実習事前学習は、保育の楽しさを知る意味でも、職業意識を高めるためにも重要なので継続してほしい。

４　学修成果

就職率、就職先選択肢の幅広さ、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価等からその学修成果は高く評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

・公務員、準公務員の就職実績が伸びていることは高く評価できる。

・卒業生の社会的評価という意味では、今後もキャリアアップ研修などを行い、卒業生がそれを受講することでさらにステップアップできるという流れを作っておくことは大切なので、継続していただきたい。

5　学生支援

学生への支援体制として、就職支援や学校生活上のサポート体制、学生相談の仕組み、経済的支援の制度が充実しており、評価できる。一方、学生の視点に立つと改善が必要なところも見られるので、今後取り組んでほしい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

・実習準備の際に学生側が行う事務手続きにおいて、手続き期間が十分に取られていないと思われることがあったので、再確認していただきたい。

・実習先について、実習生が学ぶ環境として適切なのか疑わしいと感じられる園があるという学生からの声があった。多数ある実習先の全ての職場環境を事前に把握することが難しいのは承知しているが、できるだけこのような実習先を避けられるよう配慮できると良いと考えている。

・学生同士がより楽しく、仲間意識を持って学生生活を送れるようにとの学校側の努力がみられ、継続してほしい。

・夜間部の学生について、三年間、仕事と学校の両立はとても忙しく、体力的にも精神的にも大変な部分が多い。一方、一般的な昼間学科では得られないような貴重な経験になっていることもまた事実であり、本人の努力をしっかりサポートする学校側の体制や姿勢を評価したい。

６　教育環境

教育環境として、施設設備はもちろんであるが、現場実習の機会をしっかりと確保することができており、評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

・保育現場でのインターンシップについては、現状取り組んでいないとのことであるが、受け入れる側の現場目線で考えると、安全面などでやはり難しいところが多い。現場を知るという意味においては良い取り組みだと思うが、実際に検討するにしてもしっかりと現場の状況を調査、連携する園との調整を図ることが大切である。

・実習に入る前の心構えについてしっかりと意識付けを行ったことで、実習生の評価に結び付いたというところは評価できる。

7　学生の募集と受入れ

2023 年度入学生の状況について、入学者数の減少傾向が昨年から改善していないことは残念である。しっかりと見直しを行い効果的な学生募集施策を講じてほしい。事実に基づく広報活動、適正な入試制度の運用等については、例年通りではあるが、しっかりと実施できており評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

・広報活動の改善策として、高校への情報提供においては、実際の学生指導における熱意が伝わるように訪問担当者や資料等の工夫をお願いしたい。

・面接試験における「自己アピール」の導入が、保育者としての資質を確認するための重要な機会となるよう、継続して取り組んでいただきたい。

８　財　務

学園全体での決算が黒字見込であることは評価できる。予算作成のプロセスや予実対比の方法については改善がひつようなところもあるので、引き続き取り組んでいただきたい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

・予算案作成プロセスにおいて、各部署からの予算申請が期日通りに提出されていない状況は早急に改善が必要である。

・予算実績管理は部門ごとに行われるべきであり、どこをどのように改善したか明確にしなくてはならないものである。同じ表の中で、三部門の予算実績対比が出来るように工夫していただきたい。

・補正予算の編成は、もう少し早期に行うべきかと考えられる。補正予算の収支改善の要因をさらに細かく分析していただきたい。

9　法令等の遵守

関係法令に関する最新の情報を把握し、法令遵守の観点から適切な学校運営が行われている。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

・校内規程の策定ルール作りについて引き続き取り組んでいただきたい。

10　社会貢献・地域貢献

学校としての地域貢献の観点から、また社会貢献・地域貢献の意識を持った保育者を養成するという観点から実施している例年のボランティア活動について、コロナ禍の影響で今年度も行っていないことは仕方ない。一方その中でも実施できているｅラーニング形式の公開講座などは活動として評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

・学生のボランティア活動について、来年度以降一律のコロナ対策としての行動抑制が緩和される見通しであるため、with コロナの視点で取り組むことができる活動を具体的に検討してもよいのではないかと考える。

・国際交流について、現状では入国管理法の問題もあって、当校のような保育・幼児教育分野の学校では留学生の受け入れは難しい。国際交流の在り方については「留学生」というワードを除いて、別の方策を考えることが必要と考える。